

事故の再発防止対策に係るご意見について

○ 住民説明会（11月14日開催）でのご意見

- ・ 村民への緊急時の連絡方法のうち、教育委員会を通じた各学校や父兄への具体的な連絡方法が分からないと不安なので、明らかにすること。
- ・ 稼働して数日で事故が起こったのは、人為的ミスというより仕事のマンネリ化が原因で、大事なことを忘れていないか。
- ・ 失敗から学ぶことは多いので、次のステップに活かして、現場の管理体制強化の中で作業員の教育を徹底して事業に取り組んで欲しい。
- ・ 除染は復興の前提で、これを進めるためには減容化が必要であり、そのためにも教育をしっかり行って、早く復興させて欲しい。

○ 有識者委員の現場確認後のご意見（11月15日、11月27日、12月2日に分けて現場確認）

<設備に関する再発防止対策について>

- ・ 設備に関する再発防止策は十分にとられている。
- ・ メンテナンス作業が容易になるような工夫をすること。
 - ▶ 作業者が運転中に余計なことを考えずに安心して作業ができるよう工夫すること。
 - ▶ 万が一ゲート上に灰が蓄積してもメンテナンスが容易にできるように工夫をしてそれを良く理解させること。
- ・ 一酸化炭素の検知器は、低濃度（数百ppm程度）でも検出できるものを設置すること。

<教育・訓練について>

- ・ 事故防止には、人の教育が最も重要。
- ・ 新任者（収集運搬・投入作業員）の教育・訓練は、特に丁寧に行うこと。
- ・ マニュアル、手順書に従ったチェックリストが大切であり、始業前（朝）と終業後（夕）に必ずチェックリストでチェックすることが重要。
 - ▶ 毎日何をチェックするのか明確にすること。
 - ▶ 作業に慣れてきた時にチェックリストの存在意義は大きいので、十二分に活用すること。
 - ▶ 本施設はバッチ運転なので、毎日きちんとチェックして管理できていれば問題はない。
- ・ 運転再開後軌道に乗ってきた時点で、運転マニュアル等の確認と見直しを検討すること。

<焼却炉の運転について>

- ・ 10,000Bq/kg超の対象物の取扱い作業は、自動化しない現状システムが良い。また、焼却不適切物の混入がないかどうかを人の目で確認する現状の考え方で良い。
- ・ 燃焼対象物の性状に応じた組み合わせ等の条件を事前によく検討して、クリンカが発生しないように留意すること。

<リスクコミュニケーションについて>

- 以下の観点を踏まえて、リスクコミュニケーションの充実を図ること。
 - 今回の事故の原因、影響及び対策に関する住民への幅広い情報提供と、今後の事故や故障に際しての迅速かつ全面的な情報の公開。
 - 事故や故障をゼロにはできないことの一般的な理解の共有。
 - 操業開始の際の条件（範囲や期限）の再確認と、本事業の地域にとって、福島復興にとっての意義の再認識。